

# 普及指導員調査研究報告書

課題名：いちご「かおり野」における直接定植育苗技術の確立

下関農林事務所農業部 担当者氏名：白石千穂・高尾吉澄・馬屋原範聡

## <活動事例の要旨>

### 1 普及活動の課題・目標

下関では、簡易な育苗管理、炭疽病に対する抵抗性、連続出蕾性など「かおり野」の品種特性が評価され、「とよのか」に代わる品種として、品種の切り替えが順調に進み、定着してきている。「とよのか」と比べて、育苗期間が短くなり育苗管理は簡素化されたが、今後、既存生産者の経営規模拡大時の更なる省力化や新規栽培者が取り組みやすい新たな育苗技術として、「かおり野」の特性を活かした「直接定植」における生育等を確認することで栽培技術確立の資とする。

### 2 普及活動の内容

#### (1) 実証ほ設置場所

下関市王司中村（I氏ほ場）

#### (2) 耕種概要

- ・品 種 かおり野
- ・育苗方式 ベンチ育苗
- ・栽培様式 高設栽培（とこはる方式）
- ・本ほ面積 1,032㎡（間口8m×43m×3棟）
- ・付帯設備 温風暖房機・電照装置・CO<sub>2</sub>施用装置・電熱線内張カーテン
- ・試験期間 平成27年7月～平成28年3月

#### (3) 試験区の構成

区の構成	鉢受け	切り離し	定植	面積
試験区	8月14・15日	9月15日	9月15日	1.0a
慣行区	7月1日	8月20日	9月15日	9.0a

#### (4) 調査項目

- ・定植時苗質調査
  - ①硝酸態窒素濃度測定
  - ②クラウン径
  - ③花芽分化状況
- ・生育等の調査
  - ①開花始め・収穫始め
  - ②草高・葉長・小葉長
  - ③ハウス内の気温および地温

### 3 普及活動の成果

#### (1) 定植時苗質調査

クラウン径は、慣行区でやや大きくなった。花芽分化指数は、直接定植区で 1.0 と慣行区の 0.3 と比べて高くなった。硝酸態窒素濃度に大きな差は認められなかった。

表 1 定植時苗質調査結果

	クラウン径 (mm)	未展開葉 (枚)	花芽分化指数	硝酸態窒素濃度 (ppm)
直接定植区	10.5	5.3	1.0	189.1
慣行区	11.6	5.0	0.3	167.8

#### (2) 生育調査

##### ①開花始め・収穫始め

各区中庸な栽培株 50 株の調査を行った。1 割が開花もしくは収穫が始まった時期を開花始め、収穫始めとした。調査の結果、直接定植区と慣行区で、頂果房・第 1 次腋果房の開花時期および収穫開始時期に差は認められなかった。

表 2 開花始め・収穫始め

	直接定植区		慣行区	
	頂果房	第 1 次腋果房	頂果房	第 1 次腋果房
開花始め	10 月 26 日	11 月 25 日	10 月 23 日	11 月 25 日
収穫始め	12 月 4 日	1 月 10 日	12 月 1 日	1 月 12 日

##### ②草高・葉長・小葉長

各区、連続 10 株の 2 反復として、草高・葉長・小葉長を調査した。直接定植区、慣行区で生育の大きな差は認められなかった。

表 3 草高・葉長・小葉長の推移

		9/15	10/15	11/15	12/15	1/15	2/15
		直接定植区	草高(cm)	21.4	24.2	22.3	31.7
葉長(cm)	23.4		31.8	23.1	30.9	36.6	34.7
小葉長(cm)	14.0		13.8	11.4	9.7	12.0	11.2
慣行区	草高(cm)	21.5	25.9	24.0	29.1	28.8	27.8
	葉長(cm)	22.7	34.0	24.0	28.4	31.6	30.4
	小葉長(cm)	12.7	14.0	11.2	9.7	10.8	10.0

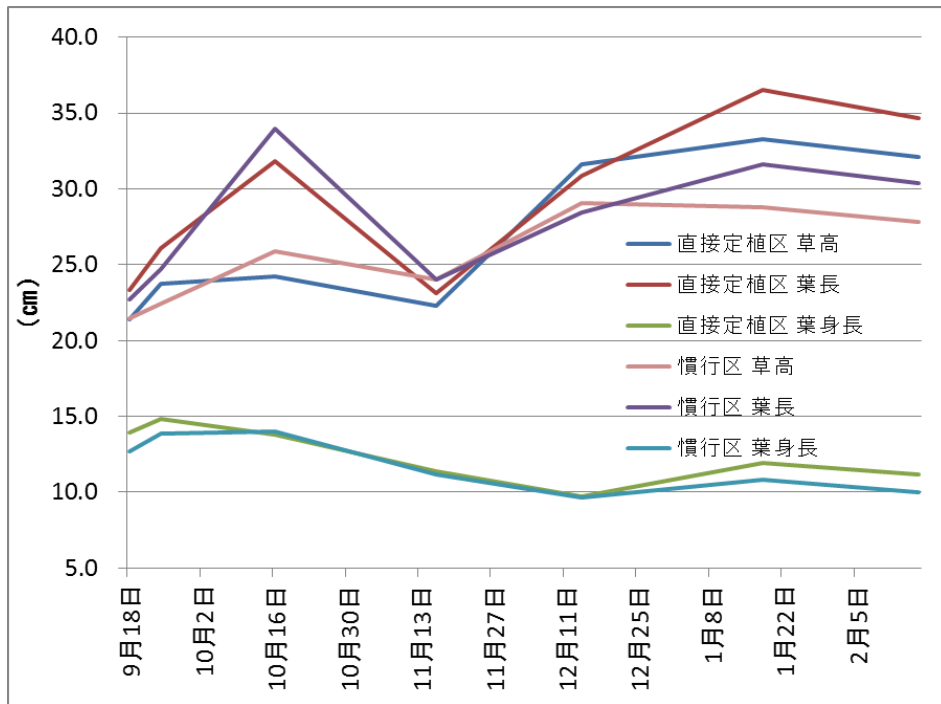


図1 生育調査結果

③ハウス内の気温

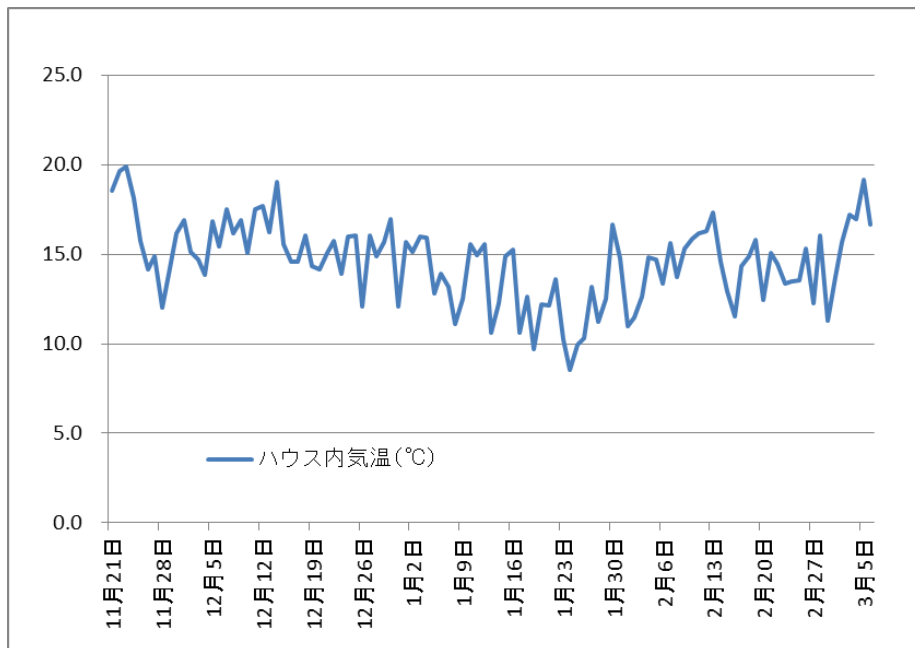


図2 ハウス内気温の推移

4 今後の普及活動に向けて

定植時の苗質調査では、慣行区と比べて、直接定植区で分化指数がやや高くなったが、頂果房および第1次腋果房の開花時期、収穫開始時期を比較したところ、両区の差は認められなかった。直接定植による育苗について、慣行育苗と差は認められないことから、比較的経営規模の大きい生産者における省力化に有効であると思われる。今回、実証試験を行った生産者からも省力化という点から評価が高かった。一方で、収穫開始時期が慣行区と比べてやや遅れるといった意見が生産者から聞かれたが、経営規模が大きいため、作型分散といった点においての評価も高かった。

また、慣行育苗と組み合わせることで、8月10日前後に切り離しを終えた後、再度、直接定植による育苗で苗を確保するといった取組が可能と考えられ、必要な親株数の減少や親株床の小面積化にも有効であると考えられる。